

みの EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版

特集 建築・建材展

セラミックタイル美濃 2021

2年ぶり
の開催!

「桜Garden タイルでつくる 憩いの空間」

3月9日(火)~12日(金)の4日間、「建築・建材展 2021」が東京ビッグサイト(東京都江東区)にて開催された(主催:日経新聞社)。本展示会は、住宅・店舗・各種施設用の最新建材や設備機器などを幅広く紹介する建築総合展(*)。

昨年はコロナ禍で中止。今回は緊急事態宣言が延長となる中、2年ぶりの開催となった。またオンライン展が同時開催された。

セラミックタイル美濃2021の展示内容を中心に紹介する。

*「建築・建材展」は、「日経メッセ 街づくり・店づくり総合展」の一部で、商空間のデザインの情報を発信する「JAPAN SHOP」など5つの展示会と同時開催。

「セラミックタイル美濃」は、岐阜県・多治見市美濃焼タイル振興協議会が主催。テーマブースの中央には満開の桜の花を設置し、春の躍動感や希望を感じさせる演出に。周囲に各社のタイルをあしらったベンチやテーブルを配した。

桜の木をシンボルツリーに。
幹部分は生木を使用。
所々に若芽が出ていた。

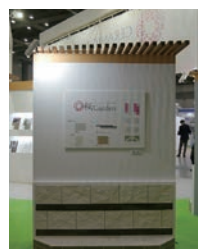


受付を桜色のタイルが彩る(右)
多治見市モザイクタイルミュージアムや市内を紹介(左)。



公共建築を
ショールームのように!

初日に多治見市長・古川雅典氏が挨拶。「タイル、陶磁器を世界に発信していきたい。多治見市の公共建築は、タイル、瓦、木材をしっかりと使ってショールームのような役目を果たしていく」。



各社のタイルを
あしらったベンチや
テーブル。



「セラミックタイル美濃」 各社ブース

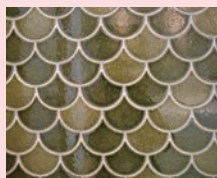
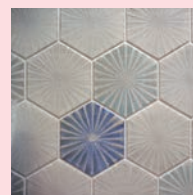
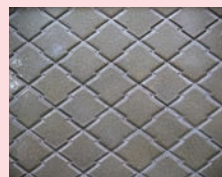
今年は15社が出展。町の一区画のように、広めの通路の両側に各社工夫を凝らしたブースが並んだ。新製品や試作品、また昨年紹介できなかったタイルパネルも併せて展示。各社の展示内容を紹介する。



アンケートに回答してくれた方には、美濃焼茶碗をプレゼント。また、今回初の試みとして、各ブースを訪ねて企業カードを5枚集めた方にモザイクタイルキットを贈呈した。



広々とした通路の両脇に各社のブースが並ぶ。通路からはテーマブースの桜の木が見える。



様々な形の
タイル！

(株)エクシズ

「ecoRevo®」は、リサイクルタイルのプロジェクト。「溶融スラグ」と呼ばれるガラス状固形物や、企業廃棄物を原料としたタイルを開発。デザイナー・Doug Meyer氏がデザインした「SHIRO Collection」や、お寺の壁に張るためにオリジナルで製作したものを商品化した「瓦」など、ユニークな形状のタイルも。



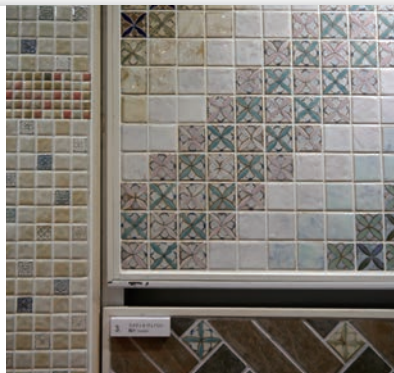
(株)カネキ製陶所

グリーンと木材を多用したブースで自然素材としてのタイルの魅力を伝える。「古窯変シリーズ」は、日本の伝統色とモダンなカラーを兼ね備え、焼成時の色ムラを生かした土らしい風合いのあるタイル。形状も多種を揃え、今回は新色を紹介。



三協製陶(株)

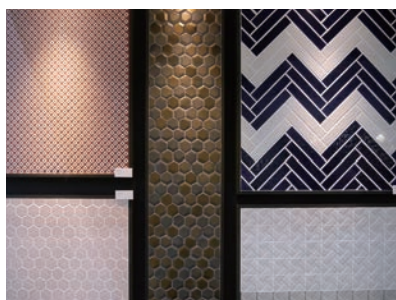
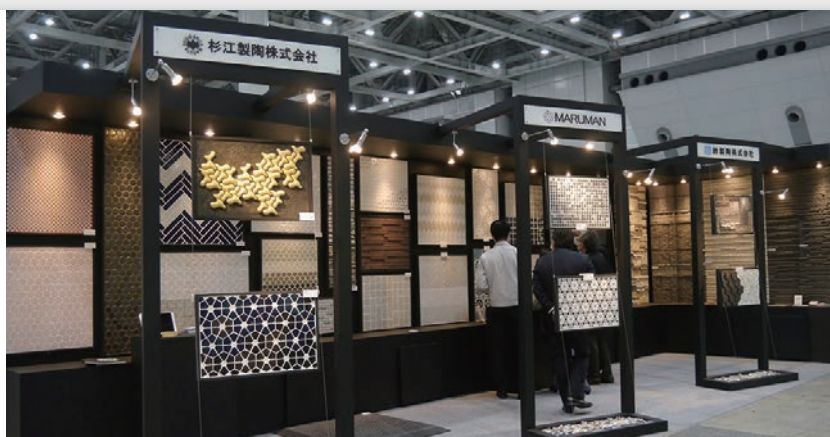
個性豊かな色合いや素材感のあるタイルを展示。新作「陶片シリーズ」は、河原で拾った陶器のかけらをイメージしたもので、淡い色合いでノスタルジックな雰囲気。花のようなデザインは、並べると「七宝つなぎ」の伝統文様になる。



杉江製陶(株)

鈴製陶(株)

(有)丸万商会

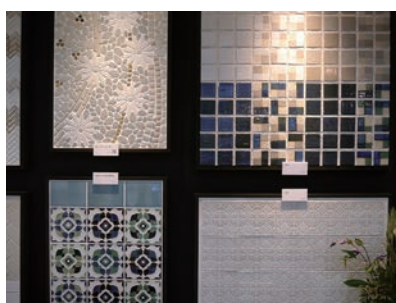
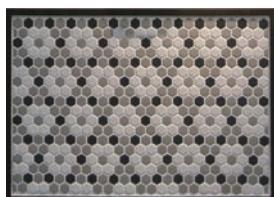
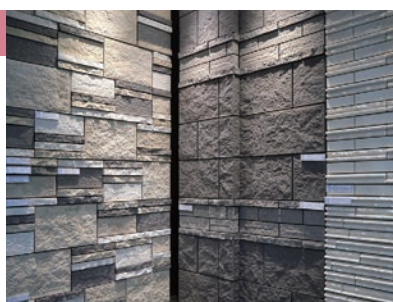


杉江製陶(株)

様々な形状および面状で、タイルの素材としての面白さを提供。多治見市陶磁器意匠研究所の卒業生が開発したタイルを揃える。鹿の子絞りの柄をモチーフとした「鹿の子」は、カラー目地を含めて意匠としている。六角形のタイル「つむぎ」は並べると三角形が浮かび上がるデザイン。

鈴製陶(株)

無釉の内外装用タイルを中心に製造・販売。異なる断面を楽しめる本割肌によるタイルを多数揃える。「バタラ」はこれまでにない300×200ミリの大判で、本物の石のような印象をもたらす。吸水率が低いので石よりも汚れにくいことがメリット。

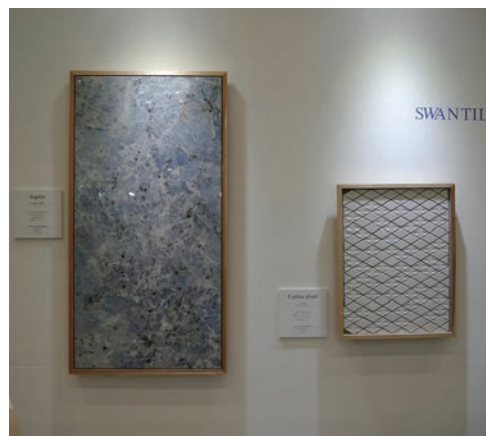


(有)丸万商会

テーマは「タイルでお気に入りの空間を」。青色系や落ち着いた色調のタイルを中心に展示。「しゃくやく」「ダリヤ」など、花をモチーフとした商品も揃え、シックな可愛らしさを伝える。「タント」は、青と白の2色系統の展開で、素朴で暖かみのある印象のタイル。

SWANTILE

新しい商品を発信するスタジオをイメージした展示空間。水洗いで簡単に汚れが落とせる機能「らくらくり〜ん」と濡れても滑りにくいという特性がある「さらっとブリップ」を実際に体験することができる。ハイドロテクト機能付き「カーネ」はペットショップと共同開発した、肉球と関節に優しいペットのためのタイル。



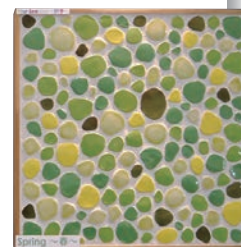
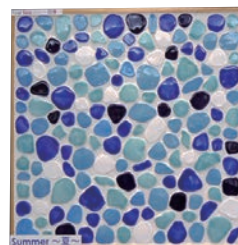
(株)セラメッセ

ブース入口に展示した「Caita」は多彩なイメージを演出できるカジュアルなタイル。「フレーバーシンフォニー」は18色、3つの形状にそれぞれ2つの面状を選択でき、自由に組み合わせることができる。2021年2月に「THE TILE SHOP」オンライン通販サイトをオープンした。



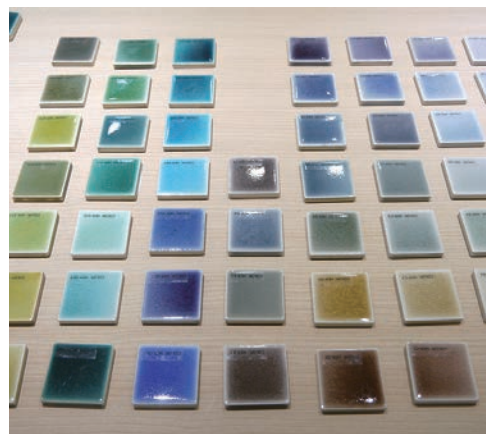
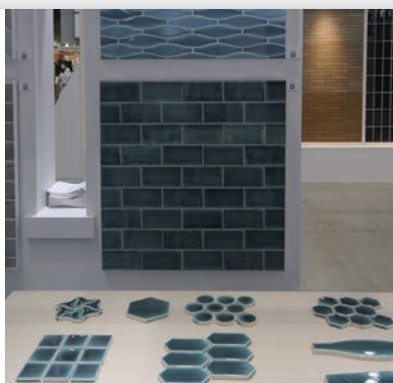
(株)谷口製陶所

湿式製法でつくられたタイルは、釉薬に厚みがあり、焼き物の存在感を感じさせる。「四季玉石」は、一つずつ手作業で成形した玉石タイルで、手仕事の温かみを感じさせる。鮮やかな色合いで春夏秋冬の4色系統の展開。「アンシェント〜Ancient」は鉄釉を用いたタイル。



(株)TNコーポレーション

名称に「未来に遺したいタイル」という意味合いを込めた「ヘリテージ」は、3種類の表面仕上げ、70種類を超える色、20種類の形状の中から、組み合わせを選べるタイルのセミオーダー事業。白い原料を使用したボディー（生地）や厚い釉薬の層により、淡い色も美しく見せる。



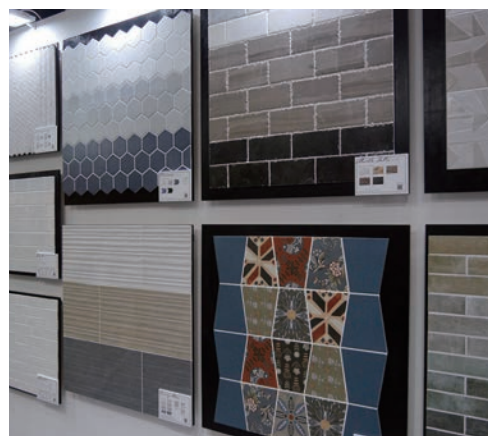
長江陶業(株)

「陶埴(美楽濃シリーズ)」は、多治見の茶碗メーカーおよび銅版メーカーとのコラボレーションによって生まれたタイル。細やかな絵柄が銅版転写によって描かれ、「唐草」「青海波」などの伝統柄や「桜ちりめん」などの鮮やかな和柄を揃える。@HOMEタイルdeスマイル!キャンペーン第2弾を開催中。



名古屋モザイク工業(株)

オリンピックカラーをイメージした華やかな印象のブース。床に5色のガラスモザイクタイルを施し、中央には聖火台をイメージしたオブジェを設置。国内外の個性的なタイルや、抗菌・抗ウイルスの効果があるハイドロテクトを施したタイルを紹介。



ニッタ工業(株) 岐阜工場

常滑を発祥の地とし、耐火れんがの製造・販売を始まりとする。土らしさを生かした湿式の無釉タイルを中心に展示。外壁やエントランスに用いられる「リコッタ」は、焼成前にブラシ加工を施し、柔らかな風合いに。様々な形状を組み合わせることで高級感を演出する。



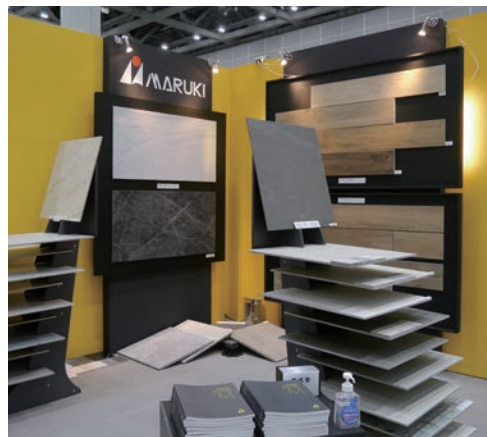
藤垣窯業(株)

トイレやキッチンイメージした空間で、タイルを簡単に張ることのできるタイルシートを紹介。裏面のシールは3種類あり、「通常」「強力」に加え、賃貸物件にも使用できる「はがしやすしい」タイプも。目地ネットはゴム製で切るのも容易。ホワイト、グレー、ブラウン、ベージュ、ブラックの5色展開。



(株)丸喜

商業施設からマンション、戸建住宅まで幅広く使用できる大型セラミックタイルを中心に展示。「ガイア モデル20T」は、20ミリ厚の石調タイルで、車の走行も可能。木目調タイルは本物と見まがう質感。滑りにくい仕上げにより、天然木の弱点をカバーする。



会場レポート

初日の9時頃、ホール入り口が関係者とおぼしき人たちが賑わう様子は一見例年と変わらない。検温と消毒をして会場を目指すも、入場パスがないとかなり手前で止められてしまい、チェックが厳しくなった。

海外メーカーの出展もなく、出展者は138社317小間と例年の半数程度。各ブースで対応する人員も減らしている様子がうかがわれた。そうした中でも展示を見た後にカタログを持ち帰ったり、担当者に質問したりする来場者の姿も見られた。

「セラミックタイル美濃」の近くには「愛知県三河の窯業展」の展示ブースがあり、三州瓦を中心に紹介。中央に屋根の模型を設置し、階段を上った先で瓦の構造を間近に見られるようになっている。

予想はしていたが、ウェブサイトで発表された来場者数は例年よりかなり減少していた。来年(2022年3月1日(火)～4日(金))は通常どおりに開催できることを祈りたい。



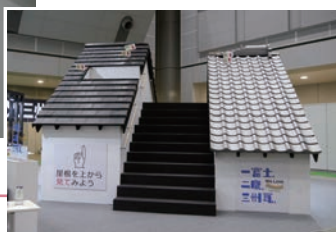
「淡路瓦工業組合」のブース。



姫路市の瓦メーカー「光洋製瓦」のブース。「建築建材展」と同時開催される「JAPAN SHOP」の特別展示「NIPPON プレミアムデザイン」にて。



「愛知県三河の窯業展」のブースでは屋根の模型を設置。



目にとまって持ち帰った瓦メーカー「栄四郎瓦」の冊子。4コマまんがで、瓦のことがよくわかる。



アンケート回答者には、グッズ等を贈呈。何種類もあり、三州瓦のキャラクター「サンちゃん」が描かれたラスクに惹かれてアンケートに回答。

多治見市モザイクタイルミュージアム

タイル考～陶芸の視座より やきものの魅力で読み解くタイル

企画展開催中！
6月27日(日)
まで



コロナ禍により、日常生活や価値観が大きな変化を迫られている今。タイルもこれまでにないあり方が求められているのでは。そんな問いかけの元に生まれた今回の企画展。陶芸作家たちが寄せた多様な作品から、未来のタイルへのヒントを探る。

タイルという名称が全国統一されたのは大正11(1922)年のこと。当時はその定義やあり方が盛んに研究されたというが、100年近く経った今、タイルは工業製品として量産される建材というイメージが定着している。

昨年からのコロナ禍はタイル業界にも影響を及ぼし、ミュージアムでも展示計画がすべて見直しに。この企画展はそんな状況下、改めてタイルのあり方を考えようと催された。

会場に並ぶのは、第一線で活躍する陶芸作家たちによる60点の作品。「タイルとは何か」という問いかけに本気で取り組み、制作したものだ。

「予想を上回る、力が入った作品が多数届きました。開梱するたびに身の引き締まる思いがしました」と学芸員の村山閑さん。

一方、作家たちからは「勉強になった」「タイルを自分の作品に引き寄せて考えることができた」「タイルとは何か、すごく考えた」などとコメントが寄せられた。中にはこんな感想もあった。「タイルを作るという作業は、新鮮で楽しいものだった。1枚のタイルを作るときに、このタイルが何枚もあり、壁一面に埋め尽くされている様子を想像し、そんな現実があったらなんて素敵なことだろうと心を震わせていました」

制作の過程で生まれた様々な思いは、作家自身の新たな活動にもつながっていくことだろう。

企画展に併せて、丸栄百貨店の壁面断片や池田泰山の作品などを展示。多様な「タイル」の姿は、未来のタイルを考えるヒントになるに違いない。

多治見市モザイクタイルミュージアム webサイト
<https://www.mosaic-tile-museum.jp/>



9月17日(金)～10月17日(日)にて開催予定の「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」では新しいタイルのデザインやアイデアを募集。優秀賞の2点は実際にタイルとして作成し、会場内で展示する。

出品作品 の例



松田百合子



伊藤慶二



田嶋悦子



鈴木秀昭

十三代 三輪休雪



キムホノ



浅野哲

主催	国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会
募集期間	2021年4月1日(木)～5月21日(金) (必着)
応募資格	応募時点において、高等学校・高等専門学校等に所属する学生
募集要項 入手先	・イベントサイトよりダウンロード https://www.icfmino.com/outline/event/detail.php?id=51 ・セラミックパークMINO、モザイクタイルミュージアム他に設置
問い合わせ先	0572-25-4111(事務局)